

# ダイヤコート鉗子

抜歯の際に歯牙を確実に把持する為に、従来の鉗子に比べて頭部の形状、角度、長さを工夫しており、また嘴部内側に滑り止めのダイヤモンドを電着してありますので、歯根膜をキズつけずに抜歯出来ます。

## 特徴

1. 歯冠の把持が良い。
2. 滑脱、誤飲の心配が無い。

## 用途

1. 自家歯牙移植の際の抜歯に。
2. インプラント治療に。

## 形状的特徴

1. 環状靭帯を傷つけないようにするため、内方に向かう刃角を緩やかにした。従って萌出の浅い智歯に有効である。
2. 歯冠の大きさと形態により、出来るだけ外形に沿って接点を作るようにするために、嘴部先端が鉗子を歯冠幅に開いた時に平行になるように、閉じた状態では近心側より遠心側が狭くなるように

3. 嘴部先端の開きが従来の鉗子に比べて初めから大きく、最少歯冠幅より僅かに狭いだけなので、ハンドルを無駄に開脚する必要がない。手の小さな方、特に女性にも使い易い。
4. 嘴部の長さを開口量の狭い人にも有効に働くように、歯冠をつかむのに最小限の長さにしてある。



大臼歯用(下)  
No.27



小臼歯用  
No.4



智歯用  
No.222



大臼歯用(上)  
No.10の正面



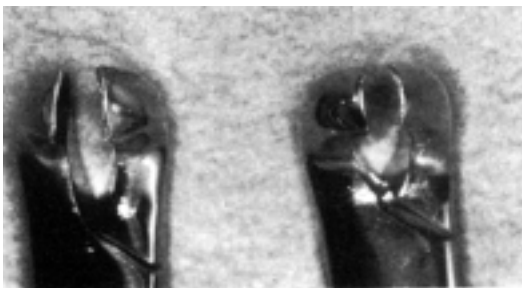
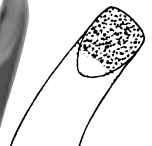
大臼歯用(上)  
No.10



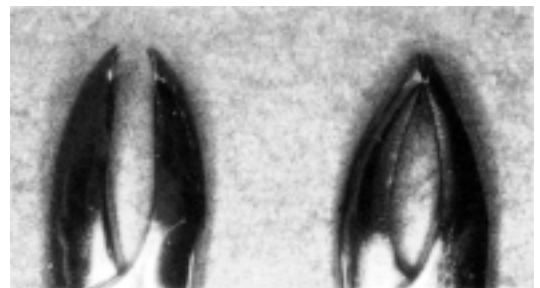
小臼歯用  
No.62(腕曲)



大臼・智歯用  
No.8(腕曲)



新考案の下顎大臼歯用のダイヤコーティング鉗子(左)と従来型(右), ハの字の開き, 関節からの長さが比較できる。



同じく小臼歯ユニバーサル型, 左は新考案, 右は従来型。

引用文献: 補綴臨床 Vol.27 No.3 1994.5.